令和5年10月１９日　　予察情報5－10

病害虫発生予察特殊報　第2号

富山県農林水産総合技術センター所長

トマトキバガの初確認について

１　病害虫名　　トマトキバガ(チョウ目キバガ科)　*Tuta absoluta* (Meyrick)

２　発生確認の経過および国内の発生状況

（１）令和５年10月６日、名古屋植物防疫所伏木富山支所が県西部に設置したトマトキバガの侵入調査用のフェロモントラップにおいて誘殺されたガの成虫を伏木富山支所で同定したところ、本県では未発生のトマトキバガであることが当日に判明した。現在のところ、県内において本種による農作物の被害は確認されていない。

（２）本種は、国内では令和３年10月に熊本県で初めて確認されて以降、10月16日現在、当県を含め国内の32道府県で確認されている。

３　形　態

（１）成虫は、翅を閉じた静止時で体長５～７㎜（前翅長約５㎜、開張約10㎜)。前翅は灰褐色の地色に黒色斑が散在する。後翅は一様に淡黒褐色である(写真１)。

（２）幼虫は、終齢で体長約８㎜。体色は淡緑色～淡赤白色。頭部は淡褐色。前胸の背面後方に細い黒色横帯がある(写真２)。

４　生態と被害

（１）１年に複数の世代が発生し、繁殖力が高い。発生世代数は環境条件によって異なり、年に10～12世代発生する地域もある。卵～成虫になるまでの期間は24～38日程度で、気温が低い時期はさらに延びる。

（２）成虫は夜行性で、日中は葉の間に隠れていることが多く、雌は一生のうちに平均約260個の卵を寄主植物の葉の裏面などに産み付ける。幼虫は１齢から４齢までの生育ステージがあり、土中や葉の表面で蛹化する。

（３）トマト、なす、ピーマン、ばれいしょ等のナス科植物が主要な寄主植物である。マメ科のいんげんまめも寄主植物として確認されている。トマトでは、茎葉の内部に幼虫が潜り込んで食害し、孔道が形成される。葉の食害部分は表面のみ残して薄皮状になり、白～褐変した外観となる。果実では、幼虫がせん孔侵入して内部組織を食害するため、果実品質が著しく低下する(写真３)。

５　防除対策

（１）ほ場内をよく見回り、見つけ次第捕殺する。

（２）トマトキバガの発生が疑われた場合は、農業研究所病理昆虫課に連絡する。

（３）発生を拡大させないため、薬剤散布を行うとともに、被害葉や被害果実はほ場に放置せず、速やかに土中に深く埋設するか、ビニール袋などに入れて一定期間密閉し、寄生した成幼虫を全て死滅させ、適切に処分する。

６　防除薬剤

トマト

薬　剤　名 （成分名）	使用 方法	使用時期	希釈 倍率	本剤の 使用回数
ディアナ SC (ｽﾋﾟﾈﾄﾗﾑ水和剤)	散布	収穫前日まで	2,500～ 5,000 倍	２回以内
ラディアント SC (ｽﾋﾟﾈﾄﾗﾑ水和剤)	散布	収穫前日まで	2,500～ 5,000 倍	２回以内
ダブルシューターSE (脂肪酸ｸﾞﾘｾﾘﾄﾞ･ｽﾋﾟﾉｻﾄﾞ水和剤)	散布	収穫前日まで	1,000 倍	２回以内
アグリメック (ｱﾊﾞﾒｸﾁﾝ乳剤)	散布	収穫前日まで	500～ 1,000 倍	３回以内
アファーム乳剤 (ｴﾏﾒｸﾁﾝ安息香酸塩乳剤)	散布	収穫前日まで	2,000 倍	５回以内
エスマルク DF (BT 水和剤)	散布	発生初発 但し、収穫前日まで	1,000 倍	－
コテツフロアブル (ｸﾛﾙﾌｪﾅﾋﾟﾙ水和剤)	散布	収穫前日まで	2,000 倍	３回以内
トルネードエース DF (ｲﾝﾄﾞｷｻｶﾙﾌﾞ水和剤)	散布	収穫前日まで	2,000 倍	２回以内
アクセルフロアブル (ﾒﾀﾌﾙﾐｿﾞﾝ水和剤)	散布	収穫前日まで	1,000 倍	３回以内
ベネビア OD (ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ水和剤)	散布	収穫前日まで	2,000 倍	３回以内
ベリマーク SC (ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ水和剤)	灌注	育苗期後半 ～定植当日	400 株当たり 25ml (希釈水量４００株 当たり 10～20ℓ)	１回
プリロッソ粒剤 (ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ粒剤)	株元 散布	育苗期後半 ～定植時	２ｇ/株	１回
プリロッソ粒剤オメガ (ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ粒剤)	株元 散布	育苗期後半 ～定植時	２ｇ/株	１回
フェニックス顆粒水和剤 (ﾌﾙﾍﾞﾝｼﾞｱﾐﾄﾞ水和剤)	散布	収穫前日まで	2,000 倍	２回以内
ヨーバルフロアブル (ﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ水和剤)	散布	収穫前日まで	2,500 倍	３回以内
グレーシア乳剤 (ﾌﾙｷｻﾒﾀﾐﾄﾞ乳剤)	散布	収穫前日まで	2,000 倍	２回以内
プレオフロアブル (ﾋﾟﾘﾀﾞﾘﾙ水和剤)	散布	収穫前日まで	1,000 倍	２回以内

ミニトマト

薬　剤　名 （成分名）	使用 方法	使用時期	希釈 倍率	本剤の 使用回数
ディアナ SC (ｽﾋﾟﾈﾄﾗﾑ水和剤)	散布	収穫前日まで	2,500～ 5,000 倍	２回以内
ラディアント SC (ｽﾋﾟﾈﾄﾗﾑ水和剤)	散布	収穫前日まで	2,500～ 5,000 倍	２回以内
ダブルシューターSE (脂肪酸ｸﾞﾘｾﾘﾄﾞ・ｽﾋﾟﾉｻﾄﾞ水和剤)	散布	収穫前日まで	1,000 倍	２回以内
アファーム乳剤 (ｴﾏﾒｸﾁﾝ安息香酸塩乳剤)	散布	収穫前日まで	2,000 倍	５回以内
エスマルク DF (BT 水和剤)	散布	発生初発 但し、収穫前日まで	1,000 倍	－
コテツフロアブル (ｸﾛﾙﾌｪﾅﾋﾟﾙ水和剤)	散布	収穫前日まで	2,000 倍	３回以内
アクセルフロアブル (ﾒﾀﾌﾙﾐｿﾞﾝ水和剤)	散布	収穫前日まで	1,000 倍	３回以内
ベネビア OD (ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ水和剤)	散布	収穫前日まで	2,000 倍	３回以内
ベリマーク SC (ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ水和剤)	灌注	育苗期後半 ～定植当日	400 株当たり 25ml (希釈水量４００株 当たり 10～20ℓ)	１回
プリロッソ粒剤 (ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ粒剤)	株元 散布	育苗期後半 ～定植時	２ｇ/株	１回
プリロッソ粒剤オメガ (ｼｱﾝﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ粒剤)	株元 散布	育苗期後半 ～定植時	２ｇ/株	１回
フェニックス顆粒水和剤 (ﾌﾙﾍﾞﾝｼﾞｱﾐﾄﾞ水和剤)	散布	収穫前日まで	2,000 倍	２回以内
ヨーバルフロアブル (ﾄﾗﾆﾘﾌﾟﾛｰﾙ水和剤)	散布	収穫前日まで	2,500 倍	３回以内
グレーシア乳剤 (ﾌﾙｷｻﾒﾀﾐﾄﾞ乳剤)	散布	収穫前日まで	2,000 倍	２回以内
プレオフロアブル (ﾋﾟﾘﾀﾞﾘﾙ水和剤)	散布	収穫前日まで	1,000 倍	２回以内

【参考資料】

写真１　ﾄﾏﾄｷﾊﾞｶﾞ成虫

写真２　ﾄﾏﾄｷﾊﾞｶﾞ終齢幼虫

写真３　トマト葉、果実の食痕(飼育個体)

写真：「植物防疫所病害虫情報 No.127 より・無断転写禁止」